

## 山口大学学長メッセージ

持続可能な開発目標（SDGs, Sustainable Development Goals）は、人類のみならず全ての動植物がより良い環境の中で共存し、平和で安定した社会の発展を目指す世界共通の目標です。

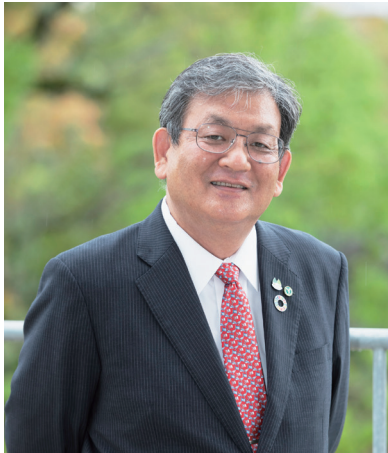
今日の世界において、地球温暖化による環境の悪化は人類を含む命あるものの生存を危うくするレベルに達しています。また、2019年末以来、3年の長きに亘る新型コロナ・ウイルス感染症（COVID-19）の猛威により、多くの高齢者等の命が奪われ、医療従事者の多大な努力にもかかわらず、先進国を含む各国の医療提供システムが逼迫しました。

さらに、ロシアによるウクライナへの侵略は、欧州地域のみならず、世界各国の社会経済に悪影響を与え、特に、アフリカ諸国の食糧不足と飢餓という連鎖的な危機を生み出しています。

このような状況から、SDGsの諸目標の達成も、その期限である2030年までに実現することは極めて難しくなっています。

山口大学は、文化12年（1815年）に、長州藩士・上田鳳陽先生が創設された私塾・山口講堂を前身としています。将来を担う若い人材の育成を目指された上田鳳陽先生の精神は、208年後の今日、地域を拠点とする基幹総合大学としての本学に継承されています。

山口大学が新たに掲げた「明日の山口大学ビジョン2030」では、〈知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学〉を中心的目標として決めました。この目標の実現に向けて、地域に根ざし、人材を育成し、知を世界に発信します。教育、研究、国際および地域貢献を通じて、SDGsの達成に積極的に取り組んで参ります。



山口大学  
学長 谷澤 幸生

### 山口大学 SDGs貢献の3つの柱

- 教育貢献：SDGsを推進する人材の育成
- 研究貢献：SDGs達成に資する研究の推進
- 国際・地域貢献：知のリソースを生かした国際・地域社会との協働

#### 表紙 イングリッシュオーク

このオークの木は、山口大学吉田キャンパスの正門を入ってすぐ右手にみえます。

2007年、当時のグレアム・フライ駐日英国大使より、英国のユニバーシティ・カレッジ・ロンドンと山口大学のさらなる交流促進を祈念して贈られました。エリザベス女王陛下が1975年に日本を訪問された際に東京の英国大使館の中に植えられたオークから実生で育てられていた若木を頂戴したのですが、今は幹も太くなり、枝を伸ばして青々と茂り丈夫に育っています。